

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びをいかに実感できる授業への挑戦 ②深い学びをいかに実感できる授業への挑戦 ③地域の協働・地域社会への発信 ④一人ひとりの子に居場所をつくる	あたたかい心の花をさかせ 自分づくりをすすめる子	自分からチャレンジ 自分から考える 自分からたかめる 自分から活かす	② ② ①② ① ①④ ③ ② ③④ ②③	3つの自慢(聞く話す・掃除・歌声)2つの習慣(あいさつ・くつそろえ)にチャレンジ 自治的活動を推進する	1)自治的活動の意味を理解し、進んで取り組むとともに、より良い方法を考えながら自治的活動に取り組む。 児童アンケート「学校が楽しい」90%以上	A	「3つの自慢(聞く話す・歌声・掃除)2つの習慣(あいさつ・くつそろえ)」を中心に、各委員長が目指す姿を示し、よりよくなるための活動を主体的に取り組んだ。児童アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童90.6%
					自分で決めて挑戦する	1)「なりたい自分」に向かい、自分で決めたことに挑戦し続けるたくましさを育成する。 児童アンケート「なりたい自分になれた」100%	B	「なりたい自分」の振り返りを、全校タブレットでプレゼンをして、家族に伝えるなど、家庭と連携し、めあてに向かって取り組むことができた。児童アンケートで「なりたい自分になれた」と回答した児童92.5%
					基礎基本をみがく	1)4ステージごとの生活・学習目標を設定し、半期ごとに振り返り、評価の積み上げを行う。	A	4つのステージごとに生活と学習の目標を設定し、各指導部長が中心となり、委員会とも連携して全校が同じ方向を向いて取り組むことができた。
					① 思考力判断力表現力をたかめる	1)全国学調平均正答率、県平均以上を目指す。 2)家庭と学校が連携協力する「花さかウィーク」を年2回実施し、「わかる」を実感する取り組みを目指す。	B	・家庭と学校が連携、協力をする学習期間(花さかウィーク)の取り組みを通して、めあてと計画を自己決定し、自分から取り組むことができた。
					①④ 校内研究体制の充実	1)年1人1回、公開授業を行う。 2)研修主事を中心に計画的な研修を行い、教師の授業力アップを目指す。 3)ICT機器を活用しながら、「小集団での学び」を推進する。	A	・研修主事を中心とし、職員が必要としていることを計画的に研修し、授業力向上を目指した。授業で使えるちよとした技術を、気楽に学べる場の設定も効果的だった。授業において「仲間との対話によって自分の考えの深まりを感じる小集団追究の在り方」について公開授業を通し、全職員で研究を進めることができた。児童アンケートで「授業が分かる」と回答した児童89.6%
					③ 地域の教育力を最大限に生かし、開かれた教育課程の実践を行い、地域社会へ発信する	1)地域の方の講話、地域での体験活動、伝統文化について学ぶ場を設定するとともに、地域への発信を行う。	A	・地域連携推進教師を中心に、各教科において、地域の人材を活用し、学校独自のカリキュラム作成を推進することができた。また、いろいろな形で情報発信ができた。
					② 学びに向かう力・人間性を活かす	1)年2回親子学習会を行い、学校や家庭において学んだことを活かすことができる。	A	・7月と12月に親子学習会を行い、命の大切さや健康、睡眠などについて親子で考えることができた。
					③ いつでもどこでも身に付けた力を活かす	1)「自分の命を自分で守る」ために、学校・地域が一体となった防災教育を進める。 2)お世話になった方に感謝の気持ちを伝え、お互いの喜びにつなげる場を設定する。	A	・全学年で段階的に防災について学ぶ場を設定した。まちづくり協議会防災部の方々に講師となっただき、自分の命を守るためにできることなどを学ぶことができた。
					④ 学びを生活の場で活用する	1)ねらいを明確にし、行事や集会等、めあて達成のための工夫を考えて、取り組む指導を行う。 2)SDGsを取り入れた活動を工夫する。 児童アンケート「自分にはよいところがある」90%以上	A	・見守り隊の方や地域人材講師の方に感謝の気持ちを伝える活動「ありがとう活動」を通して、たくさんの方に支えられていることに気づき、感謝の気持ちを行動にうつすことができた。
								・育友会主催講演会「出張プラネタリウムショー」を通して、SDGsについて全校で学ぶことができた。
								・児童アンケートで「自分にはよいところがある」と回答した児童96.4%

学校運営協議会における主な評価内容

・子どもたちがいい子に育ってきている。授業も教師対児童の形ではなく、児童同士が教え合いながら進めているのがとてもよく、社会でも通用する力である。小学校としていい環境を整えている。

・多様な子どもたちに対して、多様できめ細やかな対応がされており、子どもたちが安心して過ごせている。

・今年度も、地域人材を活用した学習が多くあり、ひだやんさの復活など学校と地域が連携しながら教育活動が行われている。